新華僑たちの日本⑥

ビジネスも狙う研究者

莫　邦富

『留学生新聞』が一九九四年二月号に掲載した読者アンケートの調査結果は、ある側面から新華僑の出身地や構成内容を明らかにした。

それによると、新華僑および新華僑の予備軍でもある留学生・就学生の出身地は、上海が三八・五％と多く、次に北京の一六％と続く。つまり、上海と北京の出身者が半数以上を占めているのだ。また、来日前の学歴を見ると、大卒以上が六七・五％、高卒は二四％となっている。

日本語学校または専門学校を卒業しただけでは、よほど特殊なケースを除いて日本での就職が不可能だから、新華僑たちの学歴はもっと高いはずだ。

実際、新華僑の中には、エンジニア、大学教員、研究者、作家になった人や、銀行、証券会社、大手商社など日本人も羨む企業にホワイトカラーとして就職した人が大勢いる。

世俗的に見れば、新華僑たちはこれらいい職業を手にしたのだから、さぞかし大満足しているだろうと思う。しかし、そこはビジネスの嵐が吹き荒れる中国の経済改革・開放の申し子、新華僑である。彼らは大学教員などをしていながら、ビジネスも手掛けようとしているのだ。

―

今回紹介する広島市立大学情報科学部助教授に就任した任福継さん（三十五歳）も、その一人だ。

任さんは四川省の出身だが、来日前は北京郵電大学、北京大学大学院などで新世代コンピュータを研究していた。中国科学院で博士課程を修了し、工学博士となった。八七年に来日。北海道大学で四年間研究生活を送ってきた。

研究者らしく、彼の夢は多言語機械翻訳の実用化だ。

「日本は国際社会、情報化社会を目指しています。国際社会、情報化社会を迎えるために、その前提条件がいろいろそろわないとだめですね。その一つは、言葉による障壁をまず取り除かなければなりません。私は日本の産業界のことをよく知っています。日本にとっては、国際的研究環境を整えることが不可欠です」と任さんは強調する。

このため、任さんは北海道大学での研究生活を終えた後、いったんコンピュータ会社「CSK」に入社した。しかし、自分の夢を実現したいと思った任さんは、最終的に広島市立大学への就職を選んだ。理由は「この大学は国際化、情報、芸術を教育方針に入れており、国際化研究に有利な研究環境をつくってくれるだろう」というものだった。

だが、大学の教職を得た彼は、今もCSKと関係を保っている。これに対して、彼はこう説明する。

「私は研究・開発した新しい技術を三年か四年で商品化させたいと思っています。書斎の中で理論に始まって理論で終わるような研究をする学者にはなりたくありません。情報化社会はこれから本格的に始まります。大学と企業が手を携えて研究を行う方が、成果が出やすいと思います。だから、CSKにもポストを残すようにしたのです」

任さんは現在、大連理工大学にも研究室を持ち、北京大学でも特別講義をしている。私が取材した一週間前に、任さんはちょうど新しい企画を提出した。広島市立大学、北京大学、米国のスタンフォード大学、シンガポール国立大学の研究者とともに、多言語機械翻訳のコンピュータ・ソフトウェア開発グループをスタートさせ、技術交流を重ね、ソフトウェアとシステムを開発し、企業の力を借りながら実用化に漕ぎつけたいというものだ。

ゆくゆくは他の国々にも参加してもらって、多国籍開発グループを形成し、国際化・情報化社会に不可欠な言語問題を解決しようと考えている。

「だって、実現できれば、国際電話も自動通訳で話せますし、機械のマニュアルの翻訳も自動化されます。そうすると、人々に多大な便利さをもたらすことができるでしょう」

任さんは目を輝かせてその夢を語ってくれた。彼の目の輝きを見て、私は詩人や画家、作曲家たちが作品の構想を披露するときに頬を紅潮させるさまを思い出した。しかし、任さんの次の言葉はもう商人のものだった。

「現在、全世界のどこでも科学技術関係の翻訳をする人材は不足しています。毎日進歩する科学に追いつくだけでも、膨大な資料を翻訳しなければなりません。その翻訳ができる人材の不足で困っているのです。したがって、自動翻訳は非常に大きな市場を持っていると考えてよいでしょう。私たちの開発が成功したら、大きな利益を出すことができるでしょう。

まずは活字資料を翻訳できる技術とシステムをつくり、それを基礎にして、さらに会話を自動的に他の国の言葉に通訳できる技術とシステムを開発します。私たちのこの研究テーマは情報化・国際化社会に不可欠な基本課題で、いかなる国にとっても欠かすことのできない技術なのです」

この取材に応じてくれた数日後に、任さんはシンガポールに飛んだ。自分の夢の早期実現を目指して、彼は走り出した。

別れ際に彼はこう言った。

「長く生きられなくても構いませんが、密度の濃い人生を送りたいです」

そんな人生を送るために、彼は九三年五月に仲間たちと、日本にいる中国人科学者の集まりである「在日中国人科学技術者連盟」を設立し、会長に選ばれた。この連盟は在日中国人学者を結束させ、互いに交流する場をつくり、そのビジネス活動を支援することを目的とする。

将来住む場所については、彼は別に日本にこだわっていない。米国でも、シンガポールでも、とにかく自分のやりたい研究に適した環境を常に求め、これからも活躍できる場を次々に広げていこうとしているようだ。新華僑が目指す最終目標は、やはり世界経済の晴れ舞台に立つことである。

任福継氏